

よこすかYYのりものフェスタ2016で自衛隊をPR



迷彩服を着て、記念撮影をする様子



1½t救急車内で記念撮影する様子

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田 辰雄 1等海佐）は、6月11日（土）及び12日（日）、よこすかYYのりものフェスタ2016（横須賀市）において、自衛隊広報ブースを開設し、広報活動を行った。

この催しは、横須賀市観光協会が主催し、鉄道や自動車、海上自衛隊の艦船など、さまざまな分野の「のりもの」をテーマに、三笠公園、ヴェルニー公園及び横須賀地方総監部などの各会場で開催された。

三笠公園の会場には、「自動車ゾーン」が設置され、地本のブースでは、軽装甲機動車、1½t救急車及び偵察用オートバイ（第31普連が支援）をはじめ、迷彩服の試着コーナーや、熊本地震の写真パネル、非常用糧食、南極の氷の展示を行った。両日ともに快晴に恵まれ、子供から大人まで多くの市民が足を運び、「この車でどんな仕事をしますか」「熊本地震の災害派遣の時は、この缶飯を食べていたんですか」「南極の氷は何故パチパチ音が出るんですか」などと質問する子供達の姿が見られた。

神奈川地本は、「今後も、積極的に各種イベントに参加し、防衛基盤の拡充に努めていく」としている。

神奈川県防衛協会青年部会の体験航海を支援

体験航海出港前の様子
(横須賀地方総監部)

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 松田辰雄）は、6月15日（水）、神奈川県防衛協会青年部会（会長 溝渕氏以下17名）の修理地回航に伴う体験航海を支援した。

本研修は、青年部会員の艦艇部隊に対する理解と防衛基盤の更なる拡充を目的に実施されたもので、護衛艦「いかづち」に乗艦し、横須賀地方総監部から横浜市内修理工場まで航海した。当日は、どんよりとした曇り空ではあったが、航海中、同行した本部長から、護衛艦の運用、船舶運航などについての説明を受けたほか、62口径76mm速射砲や高性能20mm機関銃の巡回展示を見学し、普段目にするこのない参加者からは、重苦しい雲を取り払うかのように、積極的に質問する姿が見られた。

また、下艦した参加者からは、「自衛隊のイベントに参加する度に、新たな感銘を受ける」「大変有意義な時間を過ごすことができました」の声を聞くことができた。

神奈川県防衛協会に青年部会が発足したのは昨年であり、今後このような機会を作為し、会員の防衛に関する知識を更に高め、連携強化や協力の充実に繋げていく必要がある。